

令和元年度
山口情報芸術センター 事業報告書
～「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセス～

令和2年9月
公益財団法人 山口市文化振興財団

本報告書は、「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセスと題して、令和元年度の山口情報芸術センターの事業活動を体系別にとりまとめたものです。

そこには、多くのアーティストとの関わり、作品紹介を通じた人々の交流・対話、様々な反響と新たな感動など、この山口の地から発信できた、ひとつひとつの成果があります。

今後も、この施設で様々な人々が出会い、対話し、新たな情報芸術の創造と発信の拠点となることを目指し、事業展開を図ってまいります。

ご覧いただき、ご感想、ご意見などをお寄せいただければと思います。

また、この場をお借りして、事業に関わってくださったアーティスト、ボランティア、体験・参加者、鑑賞者等すべての方々に、深く感謝申し上げます。

令和2年9月
山口情報芸術センター
館長 三輪 忠之

目次

令和元年度山口情報芸術センター収支決算……………	2
令和元年度山口情報芸術センター組織図……………	2
令和元年度山口情報芸術センター事業概要……………	3
[1] アート……………	4
[2] 教育普及……………	12
[3] 地域開発……………	18
[4] ラボ……………	20
[5] シネマ……………	22
[6] 主な貸館事業……………	30
[7] 施設利用状況……………	30
[8] その他特記事項……………	30
主な関連新聞記事……………	31
(参考資料)山口情報芸術センターの活動成果……………	37

令和元年度 山口情報芸術センター収支決算

山口情報芸術センターの収支決算は、施設維持管理費と自主事業費に大別されます。
自主事業費は、次頁からの事業実施経費で、当財団会計処理規程によるものを各事業体系に合わせ整理、表現したものです。

1 施設維持管理費

(支出の部)

科 目	決 算 額 (円)
施設費	166,650,811

*主な支出は、
①市立図書館を含めた施設全体に係る電気・ガス・上下水道の光熱水費(47,005千円)
②施設全体に係る清掃・空調設備等保守業務委託料、スタジオに係る舞台機構等の保守業務委託料などの保守管理経費(85,542千円)です。
*この財源は、山口市からの施設管理運営委託料、雑収入です。

2 自主事業費

(収入の部)

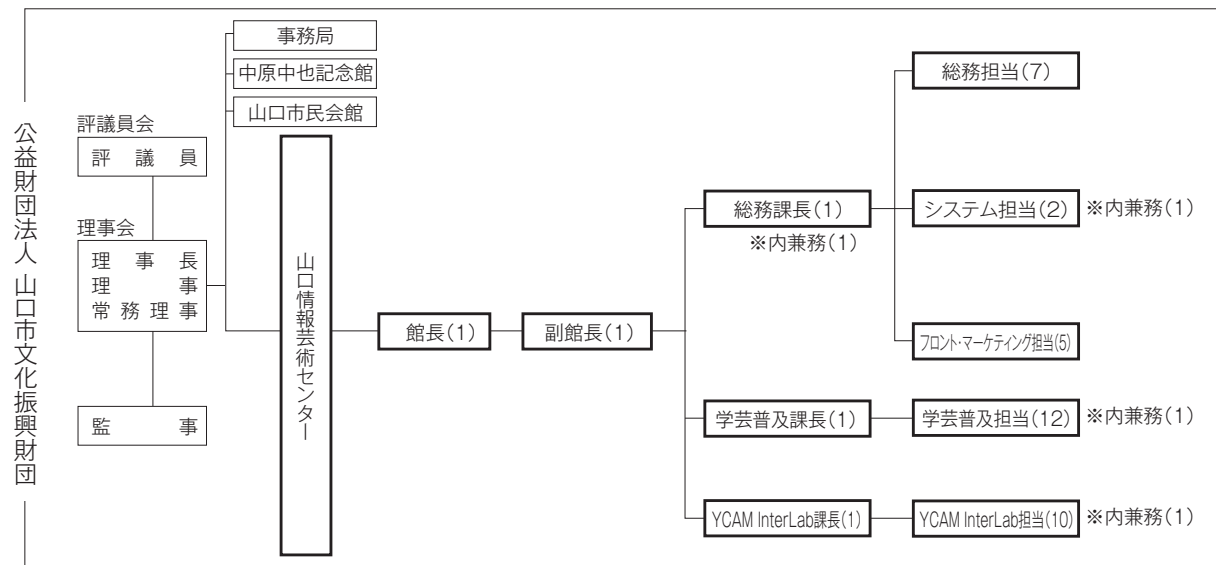
科 目	決 算 額 (円)	備 考	構成比(%)
チケット収入等	13,804,100	演劇・ダンス等公演・映画に係る入場料収入	5.8
助成金収入	5,354,064	文化庁等による助成金	2.2
雑収入等	5,995,856	ワークショップ参加料、カタログ等販売手数料、業務委託料等	2.5
補助金等収入	213,560,980	山口市からの自主事業実施に係る補助金、委託金	89.5
合 計	238,715,000		100

*チケット収入は収入全体の5.8%ですが、演劇等公演のチケット料金の安価設定やアート事業展覧会の入場無料など、鑑賞機会の創出に主眼を置いた取り組みをしています。

(支出の部)

科 目	決 算 額 (円)	備 考	構成比(%)
人件費	133,953,785	市派遣職員・専門員・副専門員・常勤職員等の人件費	56.1
アート	27,795,166	アート企画展、ダンス・パフォーマンス公演等に係る経費	11.6
教育普及	9,730,229	ワークショップ、レクチャー等に係る経費	4.1
地域開発	5,733,555	調査活動、ワークショップ等に係る経費	2.4
シネマ	17,776,839	シネマ上映等に係る経費	7.5
ラ ボ	2,341,205	研究開発等に係る経費	1.0
共通事業費等	41,384,221	広報費、研修費、アーカイブ、旅費等その他経費	17.3
合 計	238,715,000		100

令和元年度山口情報芸術センター組織図(平成31年4月1日現在) ※職員数 37人



令和元年度 山口情報芸術センター概要

1 山口情報芸術センターについて

山口情報芸術センター・通称「YCAM（ワイカム）」は、展示空間のほか、映画館、図書館、ワークショップ・スペースなどを併設したアートセンターです。2003年11月1日の開館以来、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求を軸に活動しており、展覧会や公演、映画上映、ワークショップなど、多彩なイベントを開催しています。

現在、私たちを取りまく社会では、コンピューターや通信技術、映像などによるメディア・テクノロジーが目まぐるしいスピードで進化しています。これにより、私たちの生活はあらゆる局面で情報化が進み、コミュニケーションのあり方も大きく変わりつつあります。

こうした変化は、経済活動や社会構造の変化へとつながり、「情報化社会」や「グローバル社会」などと呼ばれる、人類がかつて体験したことのない社会的状況をつくり出しました。またその変化は、個人レベルの身体感覚やリアリティ、想像力にも影響を及ぼし、それらを基盤とした新しい表現が世界中で生み出されています。

YCAMは、このような背景のもとに生まれた新しいスタイルのアートセンターです。

市民や様々な分野の専門家とともに作り、ともに学ぶことを活動理念としながら、メディア・テクノロジーとの適切な向き合い方、文化基盤としての情報の可能性、さらには人間にとっての情報の意味について、幅広いアプローチで探求をおこなっています。

また、近年ではアートの視点から地域の魅力を掘り起し、新たなつながりや価値を創出し、文化振興の枠を超えてまちの賑わいや中山間地の振興などの地域課題にも取り組んできました。

そして、この過程で生み出される表現や学びを世界に向けて発信し、次世代を担う人材の育成に寄与することを目指しています。

今後も「R&D（研究開発：Research & Development）プロジェクト」と呼ばれる形態を中心に、「YCAMでなければ生み出せないオリジナル作品の制作」「メディア・テクノロジーと市民をつなぐ教育プログラムの提供」「地域の課題や資源とメディア・テクノロジーの融合」の3点を重視しながら様々な事業を実施していきます。

2 事業の概況

令和元年度も、年間を通して多様なプログラムを実施しました。

アート事業においては、YCAMの豊富な知識や継続して取り組んでいる研究開発活動を存分に活かし、作品、展覧会を制作・発表しました。

教育普及事業においては、市民が気軽に参加できるワークショップを通年実施するとともに、ニューヨークで展開されている集中ワークショップを、YCAMオリジナル版として企画・実施しました。

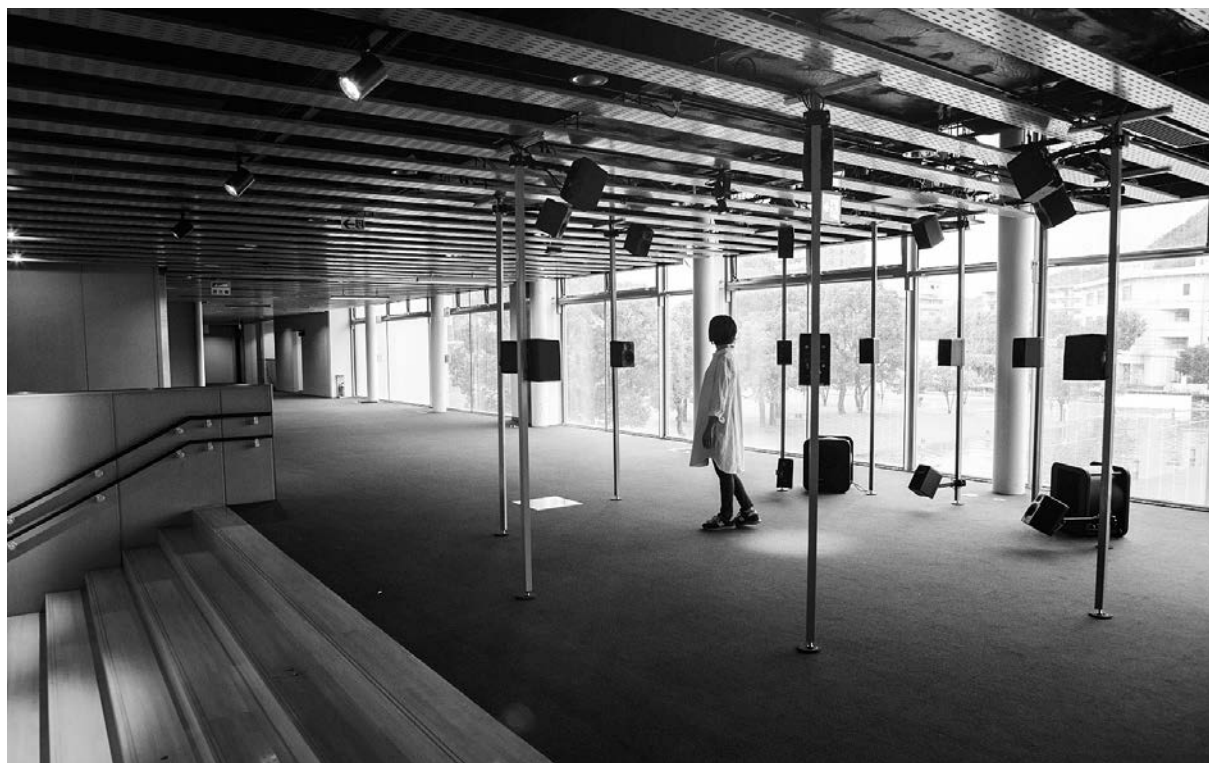
地域開発事業やラボ事業、シネマ事業においては、メディア・テクノロジーを用いた新しい芸術表現やYCAMの活動を体験していただく機会を積極的に創出しました。その中でもワイカムシネマは、開館以来、最多の入場者数となりました。

「ともに作り、ともに学ぶ」という活動理念のもと、幅広いアプローチと、その過程で生み出される表現や学びを発信することのできた1年となりました。

3 各事業総括表

事業区分	事業数	入場者数（人）
[1] アート	6	7,550
[2] 教育普及	4	971
[3] 地域開発	2	321
[4] ラボ	1	523
[5] シネマ	3	15,530
[6] 貸館（件数）	36	6,160
合 計	52	31,055

*事業区分・事業数の詳細については、次頁からの個別事業(実施月順)の内容をご覧ください。



1 scopic measure#16 Lenna
撮影：谷康弘

2 細井美裕+石若駿+ YCAM 新作コンサートピース
Sound Mine 撮影：谷康弘

2⁻¹ ● Sound Mine ハンズオン展示 撮影：谷康弘

2⁻² ● Sound Mine バックステージツアー 撮影：谷康弘

1 scopic measure#16 Lenna

開催日:7月20日(土)~11月17日(日)
会場:YCAM2Fギャラリー
入場者数:2,748人(無料)
アーティスト:細井美裕(ボイスアーティスト)

アートの地平を切り開く挑戦的なプロジェクトや、今後が期待される若手アーティストのインスタレーションなどを紹介する展示シリーズの第16弾を実施しました。
新進気鋭のボイスアーティスト・細井美裕が中心となって制作した楽曲を、22.2チャンネルの特殊な再生環境を準備したうえでサウンドインスタレーション作品として展開しました。
YCAMが継続して取り組んでいる、音とメディアテクノロジーに関する実験の蓄積を活かし、環境に埋め込まれた音の多層的な情報を発掘することによって、音に対する新たな視点を提示する作品となりました。

2 細井美裕+石若駿+YCAM新作コンサートピース Sound Mine

開催日:11月15日(金)、16日(土)計2回公演
会場:YCAMスタジオB
入場者数:158人(前売一般2,500円他)
アーティスト:細井美裕、石若駿(打楽器奏者)

細井美裕と打楽器奏者として国内外で幅広い活躍をみせる石若駿による音楽表現への探求と、YCAMが継続して取り組んでいる音とメディア・テクノロジーに関する実験の蓄積を活かし、「音と響きによって記憶を喚起させる」ことをテーマにしたコンサートピースを制作・発表しました。
本作では、制作の過程でYCAMの館内をはじめ、山口でユニークな残響が起こる建築物や自然空間で響きの特性を採取しています。それに基づいて構築した様々な記憶を喚起させる音の風景を、観客はヘッドフォンを通じて体験します。一般的なコンサートとは異なり、演奏の中心にいないはずのミュージシャンは観客の視線からは隔たれています。観客が装着するヘッドフォンからは、音の風景の中を移動するかのように、音が立体的に動き回る様子が展開していきます。
また、会場の舞台美術や照明も作品の一部となっており、聴覚と視覚が連動することで生まれる抽象的なイメージを通して、観客が自身の感覚や記憶に向き合います。

●Sound Mineハンズオン展示:ベータ版

開催日:8月17日(土)~10月31日(木)
会場:YCAMコミュニティ・スペース

本作をより深く体験していただくために、作品の中心的なテーマである「空間の響き」を分かりやすく体験できる展示をおこないました。

●Sound Mineハンズオン展示

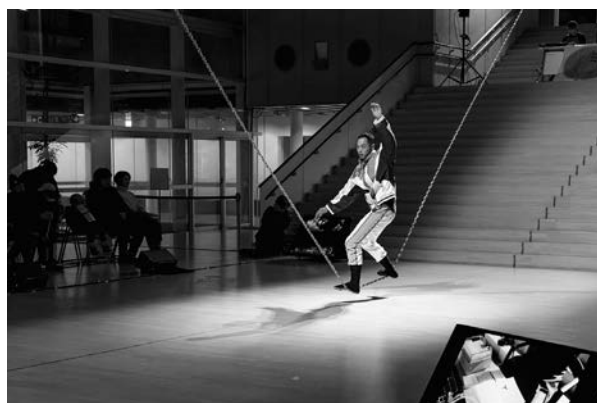
開催日:11月8日(金)~17日(日)
会場:YCAM2Fギャラリー

YCAM館内の様々な場所を移動する映像に、それぞれの場所の固有の響きを感じられる音響を加えたコンテンツなどを展示しました。作品の制作過程で重要な要素である<空間が持つ響き方の特性>について、その特徴を分かりやすく紹介しました。

●Sound Mineバックステージツアー

開催日:11月10日(日)
会場:YCAMスタジオB他
参加者数:14人(無料)
講師:細井美裕、石若駿、金子春香(YCAM)

「どのように音から空間を感じているのか」をテーマに様々なアクティビティをおこないました。目隠しをした状態で、周りの音や声で自分がどんな空間にいるかを考える「目隠しツアー」や、音が空間内でどれくらい反射して、どれくらい吸収されるのかを記録したデータ「IR(=インパルス・レスポンス)」を採りました。その音からイメージしたものをお互いに共有することによって、空間の響きの持つ不思議な力を体験する貴重な機会となりました。



- 3 contact Gonzo + YCAM バイオ・リサーチ
wow, see you in the next life. / 過去と未来、不確かな情報についての考察 撮影：守屋友樹
- 3⁻¹ ●クロージング・パフォーマンス 撮影：守屋友樹

contact Gonzo+YCAMバイオ・リサーチ wow,see you in the next life./過去と未来、不確かな情報についての考察

開催日:10月12日(土)~令和2年1月19日(日)

会場:YCAMスタジオA

入場者数:4,057人(無料)

アーティスト:contact Gonzo(アーティスト・ユニット)

私たちが生きていく中で獲得した身体性はどのように後世に継承されていくか。その可能性に着目し、「身体の継承」を遺伝的、文化的側面から捉える新作インスタレーション作品を制作、発表しました。

本作は、遺伝に関するバイオテクノロジーの最新の研究動向から、山口の民間伝承までを対象として実施したリサーチをベースに、身体表現を追求するcontact Gonzoのメソッドを組み合わせることによって、フィジカルな経験を自身の身体に蓄積できる特殊な装置群を開発、展開した体験型インスタレーション作品です。

生命の定義が書き換えられつつある現代において「自らの生」を捉えなおす新たな視点を提示するとともに、アートとバイオテクノロジーの融合という、それぞれの領域の最前線に触れる取り組みとなりました。

●オープニング・パフォーマンス

開催日:10月12日(土)

会場:YCAMスタジオA

参加者数:84人(無料)

出演者:contact Gonzo、YCAMバイオ・リサーチ

2つの頭を持つ巨大な鹿に追われて山口まで逃れてきたcontact Gonzoに、YCAMバイオ・リサーチがヒアリング調査をおこなうというストーリーのパフォーマンスを披露しました。本作制作にあたって、調査したこと、気づいたことなど、様々な実例が盛り込まれた内容となりました。

●館内ツアー

開催日:10月12日(土)~令和2年1月19日(日)の内計6回

参加者数:32人(無料)

普段は入ることのできないYCAMの裏側を案内する、ツアー形式のイベントをおこないました。

●ギャラリーツアー

開催日:10月14日(月・祝)~12月8日(日)の内計7回

参加者数:35人(無料)

スタッフと展覧会を体験し、参加者同士でディスカッションしながら鑑賞のポイントを探るイベントをおこないました。

●クロージング・パフォーマンス

開催日:令和2年1月19日(日)

参加者数:75人(無料)

会場:YCAMホワイエ、YCAMスタジオA

出演者:contact Gonzo、YCAMバイオ・リサーチ

本展覧会のクロージングを記念してcontact Gonzoによるパフォーマンスを発表しました。



4 日野浩志郎新作コンサートピース GEIST 撮影：谷康弘



5 sound tectonics#23 Experience "IIII" 撮影：谷康弘

4 日野浩志郎新作コンサートピース GEIST

開催日:12月14日(土)、15日(日)計4回公演

会場:YCAMスタジオB

入場者数:207人(前売一般3,500円他)

アーティスト:日野浩志郎(作曲家/ミュージシャン)

出演者:山本達久(ドラマー/パーカッショニスト)、ジョー・タリア(音楽家)、中川裕貴、カメイナホコ、石原只寛、角谷京子、阿武絵美、米澤真由美、阿部浩信、柳あい

日野が2018年に発表した、管楽器や打楽器などのいくつかの楽器のグループが、特殊な空間に点在しながら、演奏上のルールを同時に実行していくコンサートピースをもとに、そのテーマを引き継ぎつつ、楽曲や構成、舞台装置などの要素を大幅にアップデートした新作を制作、発表しました。

本作は、YCAMが継続して取り組んでいる音とメディア・テクノロジーにまつわる実験の成果を盛り込んだほか、地元山口市の演奏者が参画するなど、YCAMならではの試みとなっています。

音楽を聴取する体験がますますパーソナルなものとなる現在、演奏する空間や演奏者の存在に改めて着目し、テクノロジーを用いてそれらの機能の拡張を試みる本公演は、音楽聴取体験の新しいあり方を提示しました。

5 sound tectonics#23 Experience "IIII"

開催日:令和2年2月23日(日・祝)

会場:YCAMスタジオB

入場者数:140人(前売一般2,500円他)

出演者:Föllakzoid(サイケロック・バンド)、DJ NOBU(DJ)

国内外の最先端のサウンド・アート、音楽表現を紹介するライブコンサートシリーズの第23弾です。

チリのサンティアゴを拠点とし、アンデスの古典音楽の影響を受けた南米ロック・バンドと、千葉を拠点に世界で活動する日本のテクノDJという全く異なる場所とシーンで活躍する2組のアーティストが、YCAMが誇る世界有数のハイクオリティな音響システムのもとでパフォーマンスをおこなう、貴重な機会となりました。

6 山口情報芸術センター[YCAM] 委嘱作品の修復・整理 三上晴子+市川創太「gravicells—重力と抵抗」

実施期間:9月~令和2年3月

メディア芸術作品は、テクノロジーの陳腐化などにより、初公開から数年のうちに展示/実施がままならなくなることがしばしばあります。本事業では、過去にYCAMが制作・発表した作品の中から、破損していたり散逸のリスクが高いものを修復し、かかる資料を整理することで、国内外の多くの人々に対して、作品の魅力に触れる機会を担保するとともに、今後同様の事態に直面した作品が出現した際に対応可能なノウハウを蓄積してきました。

今回修復した作品は、2004年の制作・発表以降、世界各地で巡回をおこなってきました。この度の修復・整理にともない、益々の世界巡回が期待されます。



- 1 オペラシアターごんにゃく座 銀のロバ 撮影：青木司
- 2 スイッチ総研×YCAM特別納涼企画 館内ツアー型スイッチ
あなたの知らない夜のYCAM 撮影：田邊アツシ

山口情報芸術センター事業とは別に、YCAM InterLabが山口公演開催に際して、技術協力で参加した舞台公演をご紹介します。

●オペラシアターこんにゃく座 銀のロバ

主催:公益財団法人山口市文化振興財団、認定NPO法人こどもステーション山口
技術協力:YCAM InterLab
企画制作:山口情報芸術センター[YCAM]
開催日:7月7日(日)
会場:YCAMスタジオA
入場者数:288人(前売一般 3,000円他)

わかりやすい明瞭な日本語の歌唱と音楽で、子どもから大人まで楽しめるオペラ作品を創作・発表し、全国に届けているオペラシアターこんにゃく座が、オペラ作品として舞台化した、オーストラリア人作家、ソーニャ・ハートネット原作「銀のロバ」を上演しました。

●スイッチ総研×YCAM特別納涼企画 館内ツアー型スイッチ あなたの知らない夜のYCAM

主催:公益財団法人山口市文化振興財団
技術協力:YCAM InterLab
企画制作:山口情報芸術センター[YCAM]、スイッチ総研
開催日:8月23日(金)、24日(土)
会場:YCAM館内
入場者数:244人(前売一般 1,500円他)

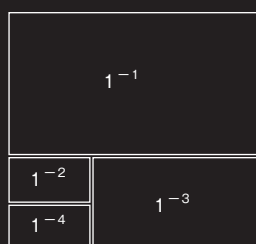
場所の持つ特性を使い、その瞬間にしか生まれ得ない唯一無二の小さな演劇を作り出すスイッチ総研を招へいし、一般公募にて募集した出演者とともに、YCAMでしか体験できない演劇作品を上演しました。

○ツアー型スイッチ「あなたの知らない夜のYCAM」おしらせミニ上演 山口情報芸術センタースイッチ

開催日:7月7日(日)
会場:YCAMホワイエ
参加者数:100人(無料)

スイッチを押すと始まる一瞬の演劇を、8月に実施する公演に先がけ、体験していただきました。

[2] 教育普及 EDUCATIONAL



1⁻¹ ●バスタ建築

1⁻² ●walking around surround

1⁻³ ●森のDNA 図鑑 撮影：田邊アツシ

1⁻⁴ ●Parallel Eyes ～視点交換鬼ごっこ～ 撮影：宮武孝行

1 未来の山口の授業 at YCAM

会場:YCAMコミュニティ・スペース

「未来の山口の授業」は、メディア・テクノロジーの応用に関するYCAMの豊富な知見を活かして、地域の連携のもと、小中学校で実施可能な教育プログラムの開発をおこなうとともに、次世代に向けた新たな教育モデルとして全国に発信していくプロジェクトです。

その中の、「未来の山口の授業 at YCAM」は、今までに開発してきたワークショップをYCAM館内で実施する取り組みで、今年度は、厳選した4つのプログラムを実施しました。

●パスタ建築

開催日:6月22日(土)~7月14日(日)の内計8回

参加者数:112人(見学含む/無料)

複数人でおこなう「ものづくり」について学ぶワークショップです。

「強くする」「高くする」など、各々に振り当てられた指令カードに従って、みんなで一つの構造物を作りました。設計図を用いない「ボトムアップ型」の設計手法を知ること、ウェブサービスや都市といったプラットフォームの成り立ちへの理解に繋がりました。

●walking around surround

開催日:8月17日(土)~9月15日(日)の内計6回

参加者数:88人(見学含む/無料)

〈音を聴く〉という行為をとらえ直し、「音」と「空間」について学ぶワークショップです。

人間の聴覚の特徴を、エクササイズなどを通じて理解した上で、YCAMが開発したワイアレススピーカーを使って「音と空間のコンポジション(作曲)」にチャレンジします。音を空間に配置するというアプローチを通じて、音が空間へと拡がり耳へと届くイメージを獲得するとともに、音楽をつくる/聴くという行為に観点をもちました。

●森のDNA図鑑

開催日:10月13日(日)~11月9日(土)の内計8回

参加者数:66人(見学含む/無料)

DNA解析技術を使って、オリジナルの植物図鑑をつくるワークショップです。

植物をみんなで採集してそのDNA解析をおこない、ひとつの図鑑をつくることを通じて、自然に対する複眼的な見方を養いました。

●Parallel Eyes~視点交換鬼ごっこ~

開催日:12月14日(土)~令和2年2月9日(日)の内計8回

参加者数:72人(見学含む/無料)

人間の知覚拡張の可能性について考えるワークショップです。

複数人の参加者が簡易型のヘッドマウントディスプレイとカメラを装着して、ネットワーク越しに相互の体験を共有するシステムに身を置きながら、「鬼ごっこ」などの簡単なゲームをおこないました。

参加者はこうした体験を通じて、自分以外の視点から自分の状況を把握する方法や、複数の映像から「自分」を理解する感覚を学ぶことができます。



2	
2 ⁻¹	2 ⁻²

2 SFPC Summer 2019 in Yamaguchi 撮影：竹久直樹

2⁻¹ ●詩的なコンピュテーションとは何か？ 撮影：竹久直樹

2⁻² ●SFPC Summer 2019 in Yamaguchi 報告会 撮影：竹久直樹

2 SFPC Summer 2019 in Yamaguchi

開催日:9月4日(水)~11日(水)※8日間通し

会場:YCAMスタジオB、YCAMスタジオD

参加者数:20人(一律50,000円)

講師:チェ・テユン(アーティスト/エドゥケーター)、ローレン・ガードナー(プロダクトマネジャー/アーティスト)、メラニー・ホフ(アーティスト/エドゥケーター)、ロビー・クラフト(アーティスト/エンジニア)、ジェーン・フリードホフ(ゲームデベロッパー/クリエイティブコーダー)

ニューヨークを拠点に展開されている、コンピューターを用いた表現のための学校「School for Poetic Computation(SFPC)」のカリキュラムを実施する集中ワークショップを開催しました。

SFPCは、コンピューターの根幹にある基本的な理念である「コンピューテーション(計算)」を用いた様々な表現方法を学ぶ10週間のカリキュラムを提供しており、アメリカ国外では初の開催となった今回は、YCAMがこれまでに開発してきた教育プログラムと融合させたものを一週間に渡って実施しました。

創造や表現を起点に新たなコミュニティを形成しようとする本イベントは、YCAMが追及してきた「新たな学びのかたち」の現在形を提示、共有する取り組みとなりました。

●詩的なコンピューテーションとは何か？

開催日:9月7日(土)

会場:YCAMスタジオB

参加者数:43人(無料)

登壇者:チェ・テユン、メラニー・ホフ、ロビー・クラフト、ジェーン・フリードホフ、ローレン・ガードナー、西田有美、浦川通、松浦知也、ブライアン・ソロン、今野恵菜(YCAM)、伊藤隆之(YCAM)、城一裕(YCAM)

SFPCの講師陣とYCAMスタッフによるトークイベントとして、SFPCのこれまでの取り組みの紹介や、「これからのプログラミング教育の在り方」「これから求められるクリエイティブ人材について」「コミュニティとネットワークの形成方法」などをテーマに議論を展開しました。

●SFPC Summer 2019 in Yamaguchi 報告会

開催日:9月11日(水)

会場:YCAMスタジオB

参加者数:35人(無料)

登壇者:チェ・テユン、ローレン・ガードナー、今野恵菜、伊藤隆之、城一裕

SFPCの成り立ちや取り組みなどの概要を紹介するとともに、ワークショップ参加者による、ワークショップでの学びを発表するプレゼンテーションおよび、SFPC講師陣とYCAMスタッフによるワークショップ全体のまとめをおこないました。



3 YCAM バイオ・リサーチ

[リサーチ・ショーケース] ● vol.3 撮影：谷康弘

3 YCAMバイオ・リサーチ [リサーチ・ショーケース]

会場:YCAMコミュニティ・スペース

バイオテクノロジーの応用に関するYCAMの研究開発プロジェクト「YCAMバイオ・リサーチ」の取り組みを紹介するイベントシリーズを開催しました。

2017年以来の開催となった今回は、同時期にYCAM館内で開催した新作インスタレーション展「wow.see you in the next life.／過去と未来、不確かな情報についての考察」の制作過程で用いたバイオテクノロジーなどを紹介するとともに、バイオラボの基本的な機材を紹介しました。

●vol.1

期間:10月12日(土)～11月11日(月)

●vol.2

期間:11月16日(土)～令和2年1月13日(月・祝)

●vol.3

期間:令和2年1月18日(土)～3月15日(日)

4 YCAM情報社会見学 for school

開催日:通年

参加者数:16校(535人)(500円※市内児童は無料)

テクノロジーを用いた体験を通じて「想像力／創造力」を育む、学校向け館内ツアープログラムを実施しました。情報社会を構成している、新しいテクノロジーを実際に体験し、これからの私たちの生活とテクノロジーの付き合い方について考えます。これまでYCAMが開発した様々な装置の体験や、普段はなかなか入ることのできない劇場のしくみ、作品に使用するシステム、アーティストやスタッフの仕事の様子も紹介しました。

[3] 地域開発 REGIONAL RESEARCH



1	1 ⁻¹
2	2
2	

1 YCAMスポーツハッカソン2019 撮影：田邊アツシ

1⁻¹ ●未来の運動会のための哲学対話 撮影：谷康弘

2 第4回未来の山口の運動会 撮影：谷康弘

1 YCAMスポーツハッカソン2019

開催日:5月3日(金・祝)～5日(日)※3日間通し

会場:YCAMスタジオA

参加者数:33人(一般15,000円他)

講師:西翼(キュレーター)、犬飼博士(ゲーム監督/eスポーツプロデューサー)、運動会屋

メディア・テクノロジーを駆使して新しいスポーツのアイデアを実現する3日間の合宿形式のイベントを開催しました。近年、テクノロジーとスポーツの融合を図る取り組みが国内外で数多く見られるようになっていきます。YCAMでもこうした状況を背景に、これまでになかったスポーツの楽しみ方をテクノロジーを軸に切り開いていく研究開発プロジェクト「YCAMスポーツ・リサーチ」を実施しており、本イベントもその一環として開催しました。

参加者は開発(デベロッパ)と実践(プレイ)を繰り返す「デベロッパプレイ」と呼ばれる制作手法を中心に、二日間に渡り、これまでに世界に無い9つの新競技を開発しました。最終日には開発した競技を楽しむ運動会を開催しました。

●未来の運動会のための哲学対話

開催日:5月2日(木・祝)

会場:YCAMスタジオD

参加者数:30人(無料)

ファシリテーター:犬飼博士

「YCAMスポーツハッカソン2019」開催に向けて参加者とともに「未来の運動会」についてディスカッションしながら突き詰めて考えていく、参加型トークイベントをおこないました。

2 第4回未来の山口の運動会

開催日:5月5日(日)

会場:YCAMスタジオA、中央公園

参加者数:223人(無料)、見学者数:35人

MC:西垣峻宏

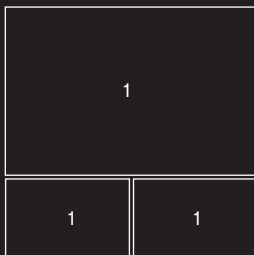
DJ:DJありがとう(DJ)

ハッカソン参加者に加え、一般参加者が会場に集結し、「YCAMスポーツハッカソン2019」で生み出された競技を体験する運動会形式のイベントを実施しました。

メディア・テクノロジーをふんだんに取り込んだYCAMならではの競技から、鯉のぼりを使った子どもの日にぴったりの競技まで、幅広い年齢層に楽しんでもいただける多種多様な競技を4チームに分かれて優勝を目指して競い合いました。参加者全員が一致団結し、スポーツとメディア・テクノロジーの融合した運動会を作り上げました。



1 YCAMオープンラボ 2019 ナマモノのあつかいかた 撮影：谷康弘



1 YCAMオープンラボ2019 ナマモノのあつかいかた

開催日:11月16日(土)、17日(日)

会場:YCAMホワイエ

参加者数:523人(無料)

YCAMの研究開発活動を体験できる複合型のイベントを開催しました。

タイトルにある「ナマモノ」とは、文字通り「生物」を指しています。生物に関わるバイオテクノロジーは近年、食や医療、エネルギーなどの分野で応用が進み、私たちの生活にますます身近なものになってきました。一方で急速な技術革新から、倫理や安全性などに関する議論は絶えません。そうした状況を受け、YCAMでも2015年に館内にバイオリボを設置し、芸術表現や教育への応用を模索してきました。

そこで、3年連続3回目の開催となる今回は、バイオテクノロジーに焦点をあて、バイオリボの役割からアートセンターのあり方を考えました。国内外のバイオリボを持つ組織のメンバーや専門家を招へいし、トークイベントとディスカッションを通じて、バイオテクノロジーが社会に与える影響についてはもちろん、創造性とテクノロジーの関わりや公共施設のさらなる可能性についても考える機会を創出しました。

11月16日(土)

○パーソナル・バイオテクノロジー:YCAMバイオリサーチの取り組みにおける、コミュニティとの繋がり、アートへの展開

登壇:YCAMバイオリサーチ

○生命に関する芸術的調査

登壇:サンドラ・サジョヴィッチ(キュレーター)

○ライフパッチーアート、科学、そしてその先へ

登壇:ヌル・アクバル・アロファトゥラ(研究者)

○contact Gonzoによる展覧会ツアー

11月17日(日)

○ワイルド・サイエンティストとしてーコミュニティ・ベースド・バイオロジーの未来

登壇:片野晃輔(ワイルド・サイエンティスト)

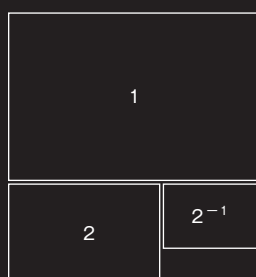
○メイカースペースで生物学をハックするー生物学がもたらすアフリカにおける社会的影響力の再考

登壇:ハリー・アクリゴ(ハイブ・バイオリボ共同設立者)

○contact Gonzoによる展覧会ツアー

○ミックスセッション

登壇:サンドラ・サジョヴィッチ、ヌル・アクバル・アロファトゥラ、片野晃輔、ハリー・アクリゴ、contact Gonzo(アーティスト・ユニット)、オロン・カツツ(アーティスト／研究者)、YCAMバイオリサーチ



1 真夏の夜の星空上映会 撮影：谷康弘

2 YCAM 爆音映画祭 2019 撮影：谷康弘

2⁻¹ ●渡邊琢磨＋川瀬陽太＋樋口泰人トークイベント 撮影：谷康弘

1 真夏の夜の星空上映会

開催日:8月9日(金)～8月11日(日・祝)
 会場:中央公園
 入場者数:2,300人(無料)
 上映作品:『ナビィの恋』『ボス・ベイビー』『ジュラシック・ワールド炎の王国』

YCAMに隣接する中央公園の芝生の上で映画鑑賞をおこなう毎年恒例の上映会を開催しました。15回目の開催となる今回も、3日間に渡り親子連れからお年寄りまで多くの方々に来場いただき、YCAMの「夏の風物詩」として大きな賑わいが生まれました。

2 YCAM爆音映画祭2019

開催日:8月29日(木)～9月1日(日)
 会場:YCAMスタジオA
 入場者数:1,465人(前売一般1回券1,300円他)
 上映作品:『ECTO[弦楽五重奏版サウンドトラック演奏上映]』『ボヘミアン・ラブソディ』『寝ても覚めても』『ドラゴンボール超(スーパー)ブロリー』『スパイダーマン:スパイダーバース』『ファントムスレッド』『ビューティフル・デイ』『サスペリア』『バジュランギおじさんと、小さな迷子』『ディア・ハンター[4Kデジタル修復版]』

ライブ・コンサート向けの大規模かつ高品質なスピーカーを用いて、繊細な大音響で映画を鑑賞するイベントです。YCAMでは平成25年から毎年開催しており、国内でも最高レベルの音響環境と言われるスタジオAを会場に、毎年工夫に溢れたセッティングで上映をおこなっています。繊細な大音響に身を委ねながら、映画を鑑賞する本イベントは、これまでなかなか気づくことのなかった作品内で追及されているサウンド面の「核心」を、物語や、画面上の構成とともに体感する機会の創出となりました。

●渡邊琢磨+川瀬陽太+樋口泰人トークイベント

開催日:8月29日(木)
 会場:YCAMスタジオA
 入場者数:69人(無料)
 登壇者:渡邊琢磨(作曲家/ピアニスト)、川瀬陽太(俳優)、樋口泰人(爆音映画祭主宰/映画批評家)

本イベントのオープニングを飾った『ECTO』上映後に、本作の解説や制作秘話が語られました。

●YCAM爆音映画祭2019バックステージツアー

開催日:8月30日(金)
 会場:YCAMスタジオC
 参加者数:52名(一般1,300円他※映画観賞券付き)
 講師:樋口泰人、前原美織(YCAM)、金子春香(YCAM)

映画『寝ても覚めても』のワンシーンを通常の映画館の環境と、「爆音上映」の2つの環境での見比べ/聴き比べを通じて、映画における音の魅力を探るツアー形式のイベントをおこないました。

3 ワイカムシネマ

会場:YCAMスタジオC

料金:一般1,300円他

山口では上映される機会の少ない映画作品をプログラムの中心とし、作家やテーマ別のYCAMだけのオリジナルの特集企画のほか、文化庁推薦作品などの優れた特集シリーズを巡回上映しています。

●イ・チャンドン監督特集

開催日:4月6日(土)~21日(日)の内8日間

入場者数:203人

上映作品:『バーニング劇場版』『ペパーミント・キャンディー4Kレストア・デジタルリマスター版』『オアシスHDデジタルリマスター版』

●ジャン・ヴィゴ監督特集

開催日:4月13日(土)~28日(日)の内8日間

入場者数:63人

上映作品:『アタラント号』『ニースについて』『競泳選手ジャン・タリス』『新学期操行ゼロ』

●ともしび

開催日:4月19日(金)~30日(火・祝)の内8日間

入場者数:177人

上映作品:『ともしび』

●バジュランギおじさんと、小さな迷子

開催日:4月26日(金)~30日(火・祝)

入場者数:348人

上映作品:『バジュランギおじさんと、小さな迷子』

●21世紀の女の子

開催日:4月29日(月・祝)~5月3日(金・祝)

入場者数:72人

上映作品:『21世紀の女の子』

●不屈のジャーナリスト:チェ・スンホ

開催日:4月29日(月・祝)~5月6日(月・休)の内6日間

入場者数:103人

上映作品:『スパイネーション／自白』『共犯者たち』

●ビール・ストリートの恋人たち

開催日:5月1日(水・祝)~6日(月・休)

入場者数:82人

上映作品:『ビール・ストリートの恋人たち』

●ナイトクルージング

開催日:5月4日(土・祝)~12日(日)の内6日間

入場者数:63人

上映作品:『ナイトクルージング』

【関連】トークイベント

開催日:5月4日(土・祝)

登壇:田中みゆき(『ナイトクルージング』プロデューサー)

●山猫

開催日:5月10日(金)~12日(日)

入場者数:86人

上映作品:『山猫』

●ひかりの歌

開催日:5月17日(金)~19日(日)

入場者数:36人

上映作品:『ひかりの歌』

●眠る村

開催日:5月18日(土)~26日(日)の内5日間

入場者数:156人

上映作品:『眠る村』

●500年の航海

開催日:5月24日(金)~26日(日)

入場者数:33人

上映作品:『500年の航海』

●ほほ笑みと涙の人生ロードムービー

開催日:5月30日(木)~6月30日(日)の内20日間

入場者数:1,416人

上映作品:『ぼけますから、よろしくお願いします。』『家へ帰ろう』『ふたりの桃源郷』『プエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ★アディオス』『人生フルーツ』

●クリス・マルケル特集2019〈永遠の記憶〉

開催日:6月1日(土)~16日(日)の内6日間

入場者数:52人

上映作品:Aプログラム『サン・ソレイユ』、Bプログラム『レベル5』、他

●希望の灯り

開催日:6月21日(金)~7月7日(日)の内8日間

入場者数:141人

上映作品:『希望の灯り』

●金子文子と朴烈

開催日:6月27日(木)~7月15日(月・祝)の内13日間

入場者数:255人

上映作品:『金子文子と朴烈』

●ギルティ

開催日:7月5日(金)~21日(日)の内9日間

入場者数:194人

上映作品:『ギルティ』

●洗骨

開催日:7月11日(木)~28日(日)の内9日間

入場者数:252人

上映作品:『洗骨』

●ヨーゼフ・ボイスは挑発する

開催日:7月12日(金)~28日(日)の内5日間

入場者数:56人

上映作品:『ヨーゼフ・ボイスは挑発する』

●福島は語る

開催日:7月18日(木)~27日(土)の内6日間

入場者数:120人

上映作品:『福島は語る』

●YCAMシネマの夏休み上映

開催日:8月1日(木)~25日(日)の内5日間

入場者数:343人

上映作品:『隣人のゆくえーあの夏の歌声ー』『こどもしよくどう』

●グリーンブック

開催日:8月1日(木)~12日(月・休)の内14日間

入場者数:208人

上映作品:『グリーンブック』

●東京裁判

開催日:8月3日(土)~15日(木)の内6日間

入場者数:119人

上映作品:『東京裁判』

●この世界の片隅に

開催日:8月14日(水)~15日(木)

入場者数:38人

上映作品:『この世界の片隅に』

●映画界を牽引する1950年代生まれの監督たち

開催日:8月16日(金)~9月25日(水)の内15日間

入場者数:344人

上映作品:『ドント・ウォーリー』『ブラック・クランズマン』『旅のおわり世界のはじまり』

●ホワイト・クロウ 伝説のダンサー

開催日:8月16日(金)~25日(日)の内6日間

入場者数:139人

上映作品:『ホワイト・クロウ 伝説のダンサー』

●ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス

開催日:9月5日(木)~25日(水)の内13日間

入場者数:400人

上映作品:『ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス』

【関連】YCAM×山口市中央図書館×トネリコ共催企画『ニューヨーク公共図書館エクス・リブリス』を観て語り合おう

開催日:9月22日(日)



撮影:塩見浩介

●大林宣彦監督が描く現在・過去・未来 ～映画から届く中也のメッセージ

開催日:9月13日(金)～15日(日)

入場者数:188人

上映作品:『花筐／HANAGATAMI』『異人たちの夏』他

【関連】トークイベント

開催日:9月15日(日)

登壇:大林宣彦(映画監督)、中原豊(中原中也記念館館長)



撮影:塩見浩介

●巨匠×名脚本家 橋本忍〈優秀映画鑑賞推進事業〉

開催日:9月26日(木)～29日(日)

入場者数:381人

上映作品:『張込み』『白い巨塔』他

【関連】トークイベント

開催日:9月26日(木)

登壇:西村雄一郎(映画評論家)



撮影:谷康弘

●紐解かれる哀歌

開催日:10月3日(木)～11月23日(土)の内15日間

入場者数:322人

上映作品:『ビル・エヴァンス タイム・リメンバー』『私はマリア・カラス』

●岡本喜八監督特集 映画(シャシン)に刻まれた律動(リズム) 〈日本映画上映活動〉

開催日:10月3日(木)～20日(日)の内12日間

入場者数:481人

上映作品:『独立愚連隊』『肉弾』『日本のいちばん長い日』他

【関連】トークイベント

開催日:10月5日(土)

登壇:山根貞男(映画評論家)

【関連】トークイベント

開催日:10月13日(日)

登壇:岡本真実(女優)



撮影:谷康弘

●サウダージ=遠い昔や失われたものにひかれる気持ち

開催日:10月24日(木)～11月4日(月・休)の内7日間

入場者数:190人

上映作品:『岡本太郎の沖縄』『ジョアン・ジルベルトを探して』

●人生を生き抜く

開催日:10月25日(金)～11月16日(土)の内12日間

入場者数:291人

上映作品:『パリに見出されたピアニスト』『バビヨン』

●食べていくこと、生きること

開催日:10月31日(木)~11月10日(日)の内9日間
入場者数:377人
上映作品:『ふたりの桃源郷』『作兵衛さんと日本を掘る』

【関連】トークイベント

開催日:10月31日(木)
登壇:佐々木聡(映画監督)



撮影:StudioECHO

●映画が語る移民労働者、宗教、貧困

開催日:11月14日(木)~12月1日(日)の内11日間
入場者数:376人
上映作品:『存在のない子供たち』『判決、ふたつの希望』『セメントの記憶』

●勇退できる生き方

開催日:12月5日(木)~令和2年1月13日(月・祝)の内16日間
入場者数:346人
上映作品:『米軍(アメリカ)が最も恐れた男カメジロー不屈の生涯』『さらば愛しきアウトロー』

●美術ファン必見!至福のベル・エポック(良き時代)

開催日:12月5日(木)~28日(土)の内14日間
入場者数:242人
上映作品:『クリムト エゴン・シーレとウィーン黄金時代』『ディリリとパリの時間旅行』

●音楽も登場人物

開催日:12月5日(木)~15日(日)の内6日間
入場者数:73人
上映作品:『COLD WAR(コールド・ウォー)あの声、2つの心』

●YCAMシネマの冬休み

開催日:12月13日(金)~28日(土)の内11日間
入場者数:236人
上映作品:『僕はイエス様が嫌い』『北の果ての小さな村で』

●本に魅せられた人々

開催日:令和2年1月4日(土)~2月9日(日)の内19日間
入場者数:496人
上映作品:『ガーンジー島の読書会の秘密』『ドリーミング村上春樹』『リンドグリーン』

【関連】映画『リンドグリーン』を観て語り合おう
開催日:令和2年2月9日(日)



撮影:塩見浩介

●語られる嘘、語られない真実

開催日:令和2年1月4日(土)~2月2日(日)の内17日間
入場者数:463人
上映作品:『真実[特別編集版]』『よこがお』

●「wow, see you in the next life./過去と未来、不確かな情報についての考察」関連上映

開催日:令和2年1月18日(土)、1月19日(日)
入場者数:39人
上映作品:『ミニマ・モラリア』

●山も、牛も、人も、みんなの幸せを

開催日:令和2年1月24日(金)~2月2日(日)の内7日間

入場者数:498人

上映作品:『山懐(やまふところ)に抱かれて』

【関連】舞台挨拶

開催日:令和2年1月24日(金)

登壇:遠藤隆(映画監督)



撮影:塩見浩介

●職人映画特集~極みの世界~

開催日:令和2年2月5日(水)~3月1日(日)の内18日間

入場者数:749人

上映作品:『ハルカの陶』『つつんで、ひらいて』『半世界』他

【関連】トークイベント

開催日:令和2年2月7日(金)

登壇:広瀬奈々子(映画監督)



撮影:渡邊朋也(YCAM)

●命の行方

開催日:令和2年2月5日(水)~29日(土)の内16日間

入場者数:361人

上映作品:『ホテル・ムンバイ』『ある船頭の話』

●瀬田なつき監督特集

開催日:令和2年2月16日(日)

入場者数:36人

上映作品:『PARKS(パークス)』『5windows+5windows mountain mouth』

【関連】トークイベント

開催日:令和2年2月16日(日)

登壇:瀬田なつき(映画監督)



撮影:谷康弘

[6] 主な貸館事業

●現代アート考2019「スイス、トゥーン美術館のパノラマ絵画」

主催:やまぐち街なか大学

開催日:11月1日(金)

会場:YCAMスタジオC

●アーティストインレジデンス勉強会

主催:Do a front

開催日:令和2年1月12日(日)

会場:YCAM多目的室

[7] 施設利用状況

1 入館者数

月別内訳

月	人数	月	人数
4月	60,995	10月	43,170
5月	66,961	11月	53,159
6月	52,867	12月	44,227
7月	52,431	1月	46,979
8月	62,828	2月	51,117
9月	50,979	3月	12,247
合 計		597,960 人	

2 見学・視察者数

月別内訳

月	人数	月	人数
4月	114	10月	360
5月	61	11月	160
6月	176	12月	10
7月	98	1月	40
8月	52	2月	84
9月	24	3月	1
合 計		1,180人	

3 施設使用状況

施設	開館日数(日)	使用日数(日)	使用率(%)
スタジオ A	284	169	59.5
スタジオ B	284	87	30.6
スタジオ C	284	242	85.2
多目的室	284	176	62.0

※使用率は月ごとの使用率の平均値を記載しています。

[8] その他特記事項

1 アーカイブ事業

内容:例年通り、Webやインフォメーションスペースにおいて、イベントの告知や、過去の作品内容の情報提供に努めました。また、YCAMの活動の具体的な内容や魅力をお伝えするオリジナルコンテンツとして「YCAMイヤープック」を制作しました。

2 実習生受け入れ状況

●博物館実習

4名(山口県立大学)

期間:8月23日~30日

内容:教育普及事業運営補助等

●インターン

1名(スロバキア)

期間:7月1日~7月31日

内容:YCAM InterLab課業務補助等

●インターン

1名(情報科学芸術大学院大学)

期間:8月16日~9月15日

内容:YCAM InterLab課業務補助等

●インターン

1名(香港)

期間:8月28日~9月28日

内容:YCAM InterLab課業務補助等

主な関連新聞記事





主
な
関
連
新
聞
記
事



主
な
関
連
新
聞
記
事

〈参考資料〉
山口情報芸術センターの活動成果

5月 ポーランドのアートフェスティバルにYCAM委嘱作品2作品を出品

ポーランドのヴロツワフで開催中のアートフェスティバル「WROメディアアートビエンナーレ」の「JAPANESE PROGRAM」において、2017年に発表した、大脇理智+YCAM『The Other in Youーわたしの中の他者』および、2018年に開催した展覧会『メディアアートの輪廻転生』のポーランド版が展示されました。

5月 三上晴子『Eye-Tracking Informatics』が東京で再展示

2011年にYCAMで制作／発表した、インスタレーション作品が、東京・新宿のNTTインターコミュニケーション・センター[ICC]で開催された展覧会「オープン・スペース2019別の見方で」にて展示されました。

本作は、2017年から2019年にかけてYCAMで修復／改訂がなされたものです。

6月 『Holistic Strata』が東京で再演

2011年にYCAMで制作／発表された梅田宏明によるダンス作品が、東京・池袋のあうるすぽっとにおいて上演されました。本作は、YCAMでの初公開後、国内外の数多くのフェスティバルなどで上演されており、その数は40を超えます。

10月 『Israel&イスラエル』がパリで公演

2019年2月にYCAMで世界初演を迎えた、イスラエル・ガルバンとYCAMによる新作ダンス作品がパリのMaison de la culture du Japon à Paris（パリ日本文化会館）において上演されました。これは、アート&テクノロジーに特化した芸術祭「nemo biennale」の一環として上演されたものです。

※過去の成果、詳細については、山口情報芸術センターポータルサイト (<https://www.ycam.jp/>) をご覧ください。

令和元年度
山口情報芸術センター事業報告書



山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : information@ycam.jp
<https://www.ycam.jp>

[発行] 令和2年9月

公益
財団法人 **山口市文化振興財団**
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : zaidan-info@ycfcp.or.jp
<https://www.ycfcp.or.jp/>